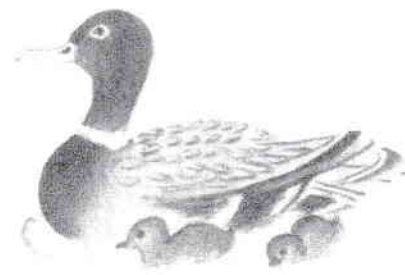


親鴨だより



2003年 9月号

第204号

今年は梅雨明けが、例年より遅く7月末まで梅雨寒の日々が続き、梅雨が明けたと思ったら、例年のように猛暑となり、この気候の変動にいささか体調維持に苦労しましたが、会員のみなさま如何お過ごしでしたでしょうか。

申し遅れましたが、私本年度より、長年に亘って親鴨会、更には野洲支部の発展に多大なご尽力くださった小熊俊夫氏の後任として、その任に当たることとなりました。会員のみなさんとともに、より一層の発展に微力を注いでまいりたいと決意を新たにしておりますので、これからもご支援ご指導の程よろしく願い申し上げます。

さて、最近話題の一つとして全国的に市町村合併があります。今、全国の市町村の約4割が合併に向けた協議会を設置していますが、野洲町も平成14年11月に隣町の中主町と合併協議会が設置され議論が始まりました。市町村合併は地域の将来や住民生活に大きな影響を及ぼすことから市町村関係者や住民が自らのこととして判断を選択するもので、合併協議会の設置イコール合併ではなく「合併するとしたらこのようにする」と言ったことを決め、最終判断のための材料を提供するものです。とりわけ野洲町のように、地方圏においては少子高齢化が著しく市町村が提供すべき社会福祉等の住民サービスの充実、必要な人材確保等を考えると合併も必然的と受け止めています。住民の一人として、よりよい結果を期待したいものです。

一方、野洲事業所ではみなさんご存知の通り、野洲 SLC 事業に関して京セラ(株)と営業譲渡契約を締結しました。これは「IBM としての物づくり」の終焉を告げるものでした。過去を振り返って考えるとき万感胸に迫るものがあります。野洲町の合併協議とは意味合いが違いますが、双方より良い方向を目指すという意味では同じでしょう。これに携わっている社員のみなさんは、それぞれの思いを込めて新天地に向かいますが新天地での益々のご活躍を祈ってやみません。

ところで、定年退職者にとって唯一の月刊情報誌「親鴨だより」が、これまでCOMPASSと共に送付されていましたが、IBM は今後ペーパーレス・カンパニーを目指すため本年9月号から全面的に電子掲載に移行する計画で定年退職者には専用のURLを用意頂くという情報が入って来ました。ということは近い将来専用URLを媒体として情報を得ることとなり、いよいよペーパーレス化、電子化時代が身近になったと思った次第です。ならば自らホームページ作成に挑みパソコンに慣れ親しもうとやってみたものの悪戦苦闘の連続、子供の助けを借りて完成、負うた子に教えられの格言を今更ながら実感しています。ところが人間の欲望は限りなく続くもので、今度はこの個人のホームページを通して世のため、人のために何かお手伝いが出来ないかと考え、例えば手作り作品の提供者と、それを必要としている人との橋渡しをインターネット上でなどと夢は益々広がっていきます。パソコンは地方圏に居住していても利用の仕方によって情報は平等に知り得るし、世界へもアプローチをかけられるツールでそこに国境はありません。故にパソコンをうまく使いこなせるようこれからも挑戦して行きたいと思うこの頃です。これから快適な秋の季節となります。健康に留意され公私に亘って益々のご活躍を祈念します

野洲支部 柴原 喬

